



## 真心の行動 慈愛の奉仕 平和に挺身

1995—96年度国際ロータリーのテーマ

ハーバート G ブラウン  
国際ロータリー会長

第2560地区  
 ガバナー——重 田 政 信  
 会 長——石 橋 育 於  
 会長エレクト——捧 賢 一  
 副 会 長——五十嵐 総 一  
 幹 事——松 谷 晃 吉  
 副 幹 事——五十嵐 昭 一  
 S A A——清 水 良 一  
 副 S A A——菊 池 涉

例 会 日——毎週水曜日 12:30 ~  
 例会場及び——三条市旭町 2—5—10  
 事 務 局——三条信用金庫本店  
 例 会 場——TEL 35—3311  
 事 務 局——TEL 35—3477  
 FAX 32—7095

|         |          |
|---------|----------|
| 本日出席会員数 | 80名中 63名 |
| 先々週出席率  | 90.79 %  |
| 前年同期出席率 |          |

### 会長挨拶

高橋一夫直前会長

今日は会長がお休みで、久しぶりの代役という事になりました。宜しくお願い致します。卓話を頂戴します若槻先生、ようこそお越し下さいました。後程、ゆっくりと良寛さまのお話をお聞きしたいと思ひます。又、北クラブから吉川さんがビジターの代表としてお越し頂きました。最後までゆっくりとお越し下さい。

さて、1週間程前になりましたら、

#### ビジター

三条北より 吉川吉彦さん

#### ゲスト

元図書館長 若槻武雄殿

#### 先週のメイクアップ

5/7 三条北へ 外山雅也さん  
 榎本 勝さん  
 渋谷健一さん

北越銀行の役員総会に出席致しました。その折、NHKで初の女性部長になりました富永さんが、「暮らしと文化」と題して記念講演をされました。

そのお話に依りますと、フランスの文化予算は総国家予算の1%だそうで、これは世界で一番多いのだそうです。おしなべて、ヨーロッパは文化に対するお金の出し方がいいんです。我国はどうかと言うと、総予算に対して0.07%です。アメリカもその比率は我国と大差ありませんが、企業とか個人の民間からの寄付が莫大ですから、結果としてはフランス並だと言われています。

所で、ドイツで公演されるオペラは、年間で56億円位かかっているそうですが、その中、41億円が公費で賄われ、入場料での負担額は14億円になります。そうしますと、入場券は大体3千円位で超一流のオペラを鑑賞する事が出来る訳です。因みに、日本の場合は3万5千円位の入場料になってしまうそうです。

ヨーロッパの人々は、音楽とか絵画などの文化に対して、お金が無いから鑑賞できないとするはフェアでない、お金が無いから聴けないと言うのはフェアじゃない、お金が無くとも超一流の芸術に接せられるべきだ、とする考え方が根底にあります。従って、当日料金を見ても、日本は前売りよりは高いですが、ヨーロッパでは安いのです。たまたま行ったら空席があったというだけの事で、又、6掛けですから、千何百円に入れる訳で

す。

こうした背景には、芸術に接する事は精神の糧であるとする考え方があります。そうしますと、今日、貿易摩擦はありますが、次に文化摩擦が起こるのではないかと思うのです。つまり、ヨーロッパ人にしてみれば、日本人はドイツやフランスで一流のオペラを3千円で観て帰るのに、我々が日本へ行くと3万とか3万5千円もかかり、これは全くフェアではないと言うことになり、いわゆる文化摩擦が起こりかねないと思うのです。我々日本人は、戦後しばらくは食うや食わずの生活でした。それはヨーロッパも同じ事だったと思いますが、そんな中でも、芸術を吸収する事は精神の糧になるとする考え方が、ヨーロッパ人には常にあった訳で、深く感銘を覚えて帰ってまいりました。

## 幹事報告 松谷幹事

◎いからしの里より

運動会のご案内がとどいております。

とき 6月8日(土)

AM9:30~

ところ いからしの里グランド

## ニコニコBOX



松谷(昊)さん

若槻さんを歓迎して、卓話宜しく願います。

藤田(説)さん

若槻さんのスピーチを歓迎して。

高橋(一)さん

若槻さん、ようこそいらっしゃいました。

小林(英)さん

突然お願いしましたのに、若槻武雄さん、心よく卓話をお引受け下さいまして感謝申し上げます。今日のお話を期待しておりました。

佐野さん

本日の卓話をして頂く、若槻殿を歓迎申し上げます。

捧さん

三軌苑春の宴、大勢のロータリアンの協力、参加いただきましてありがとうございました。

山浦さん

お陰様で町内(上町)の愛宕神社が皆様のご協力により竣工しました。ありがとうございました。

渡辺(宏)さん

町内の愛宕神社が6年ぶりに再建されました。5・6日に盛大にお祝が出来ました。多くの人達のご支援に感謝します。

丸山さん

ゴールデンウィークは今年もまたまた毎日仕事でした。

佐藤(武)さん

恥ずかしながら、国歌“君が代”を歌って50年、“さざれ石”を見た事が御座居ませんでした。今回の旅行で四国のこんびらさんで“さざれ石”を初めて見ました。

高森さん

久しぶりに硬式野球を観せて頂きました。杉野さん、始球式始め御苦勞様でした。

小越さん

連休中はゴルフ漬けでした。斎藤さん、五十嵐さん、細井さん、ありがとうございました。

三堀さん

再び休みが続いてしまいました。がんばって下さい。

佐原さん

本日は都合で早目に退席させていただきます。

佐藤(吉)さん

都合により早退させていただきます。

5月8日分  
¥18,000



## 卓 話

### 「三条と良寛」

元三条図書館長 若槻武雄殿



#### 1. はじめに

ご紹介をいただきました若槻でございます。小林さんとは同じ町内で、しかも同じ班内に住まわせていただき、何かとお世話になっている者でございます。小林さんから、このところの日本は随分おかしなことが続発している。やれ住専だ葉害だ、オームだのと枚挙にいとまのないほどいまわしい事件が発生し、当事者達は、専ら責任回避に詭弁を弄して、真底から責任をとろうとしない。これら一連の事件を通して考えさせられることは、「真実とは一体なんなのか」このところ国を挙げて、なにもかも拝金第一、明けても暮れてもカネ、カネの経済最優先の世相の中で、国民の殆んどがいつの間にか生きる拠り所を見失って了ったのではないか。「真実とは何か」「何が本当なの

か」「どう生きることが人間本来の生き方なのか」を真剣に考えてみる事が必要なのではないか。いまこそ、良寛さまの生きざまに学ぶことが望まれるのではないか、といった小林さんのご見解から、皆様の貴重なお時間を頂戴して、主題について一緒に考えさせて頂きたいと願うものでございます。

三条とはご縁の深い良寛さまについては、皆様すでにご案内のことばかりでございます。不学な私ごときがしゃしゃり出ることは、釈迦に説法のそしりを免かれることはできません。幸か不幸か、貞心尼が修行に対する迷いについて良寛さまにお尋ねした問いに対してお返しになった歌に、

「つきて見よひふみよいむなやここのとを十とおさめて又はじまるるを」というのがあります。出雲崎の名家に生まれながら出家し、生涯を托鉢と座禅を通して厳しい七十有余年の生涯を生き抜かれた、不世出の名僧良寛さまが、どろどろした世相の中で、悩める貞心尼に「ひ、ふ、み」と、数えながら遊ぶまりつきに托して、修行の心構えといったものを諭されたのが、この歌とされています。

良寛さまはいつも袖の中に手まりを入れておられました。まりつきの極意を数えてくれと言うなら、それは一二三四五六七、とひたすらつくことだと詠まれた漢詩もあります。まりつきをするなら何もかも忘れてまりをつく。そのことはま

た、仏法の極意でもあるというのです。子どもに会えば童心に返ってまりをつく良寛さま、まりつきのように単純そんな事柄でも、繰り返し、繰り返し続けることの大切さ、物の本質を極めるために、修行僧が死ぬまで座禅を繰り返す、そんな生きざまに免じて、既にご案内の事柄を訥々とお耳を汚す非礼をお赦しいただきたいものでございます。

#### 2. 良寛来条のころの三条

良寛さまは一生托鉢をしながら農村を廻り歩き、時には子どもたちと手まりをついたり、かくれんぼをしたり無邪気な遊びもされました。時には五合庵や乙子神社の草庵にこもって和歌や漢詩をつくり、小野道風筆とされる『秋萩帖』などをお手本に、書の勉強にいそまれるなど、飄々として清貧な生活を送られたことや、浮世ばなれした行状などは常人にはとても理解出来ないものがあります。しかし、その奇行や逸話が非常に親しみ慕われながら、今日まで語り継がれてまいりました。

これらについて、いろいろな評価が行われているようです。良寛さまが子ども達と無邪気に遊んだというが、子ども達と遊んだだけのものではないか。いかにも無欲に飄然と托鉢して暮らしたが、あれは百姓の忙しい時も物をねだりながら、風雅を楽しんだ乞食坊主じゃないのか。また、書が素晴らしいから誰も問題にしな

いが、曹洞禅から見れば失敗者・落伍者でしかなかったのだ。良寛さまは禅によって悟らなかった。そのために人間味がにじみ出て親しみを感じ、私どもと同じ基盤で仰がれているに過ぎないといったように、様々な論評がなされております。

ただ不思議なことに、「良寛さまとはこのような人だ」と決めつけてみても、それで決めつけられないように思います。いかなる価値体系の基準で測っても測りきれない不思議な魅力が残るように思います。理屈を越えた人徳というべきか、人間的な温さといったものが良寛さまにはあるように思うのです。身なりはみすぼらしくとも、言うに言われぬ気品が漂っているように思えるのです。

良寛さまが岡山県倉敷市玉島の円通寺での厳しい修行を了え、各地を遊行の後、越後へ帰ってこられたのが、今からちょうど二百年前の寛政八年(1796)、良寛さま39歳の時とされています。その後、良寛さまが国上の五合庵へ定住されるようになったのが、文化二年(1805)、48歳の頃とみられています。

良寛さまが三条にしばしば足を運ばれたのは、五合庵に住まわれるようになった頃から、島崎の木村家の草庵で亡くなった天保二年(1831)にかけた、今から165年から190年ほど前の、およそ25年間のことであったように考えられています。

良寛さまがご健在の頃の社会は、幕藩体制の解体期から文化・文政を狭んで天保にかかる半世紀でありました。この半

世紀は、太平の世相を謳歌しながら、実は封建の衰退が一段と深刻化した時期でもありました。いわゆる化政文化は元禄文化と並んで、町人文化の空前の繁栄期であったとされています。寛政末から享和を経て文化年間に至る間に大きく成長した庶民の実力は、再び各分野に活発な文化活動を展開しました。多数の町人・農民までが伝統文化に入門し、全国的な遊芸文化の流行を見たといわれています。

寛政四年から五年にかけて越後にやってきた経世家、今でいう政治経済学者の海保清陵は、当時の三条の様子を『稽古談』という本の中に、こんなふうに書いておられます。

「二百二年前の寛政五年に一ノ木戸の大庄屋小林家に宿泊させて貰った。その時には、女は皆結び髪で、衣類は腰きり、細帯をしめて、糞を背負って裸足で往来していた。あたかもエゾ人を描いたような様子であった。小林家では、主人自ら袴を着て、お膳の上げ下げ、ご飯の給仕をやって呉れた」と述べ、ご馳走の内容などくわしく書き留めて、当時の情景をほうふつさせるものです。その後文化元年、13年ぶりに再び越後へ来てみたら「以前とは大違いで、女性は皆髪を結って、緋縮緬の板メの帯をして、甚だ麗しう粧うて、越後とは見まごうばかりの奢侈な風になっていた。小林家では、茶室へ通し、千菓子が出、釜はチンチンとたぎるといった有様であった」とのことです。

一方、良寛さまが亡くなる八ヵ月前の文政十三年（1830）五月、諸国を遊芸していた、常磐津の節まわしに技巧を加えた富本（とみもと）を語る江戸深川の芸人、藤原衆秀が三条で39日滞在した様子を、奥羽越後紀行日記『筆満可勢』に書き留めています。文政の三条地震から1年半後のことだけに、「当地は誠に繁華の地なれど、外々にても噂ありしが、誠に見るもいたわしき有様なり」としてしています。衆秀は、本寺小路の宿屋倉田七之助方に荷を解き、その後、同じ町内のたばこ屋久左衛門方に引越し、外山さんという風呂屋に若い衆の寄り合いがあり、浄瑠璃、小春、花川戸などを披露したら、殊のほか評判がよかった。上町の造り酒屋で水原の住職が法話されると聞いて出掛けたら、殊のほかの群衆であった。三味線が傷み修理に出したら、案外上手に修理したとか、江戸は神田の生れの芸者倉吉が江戸の芸者二人を三条に呼び、田巻屋の世話になっていたと、具体例を挙げ、三条の文化の高さを書き留め、さらに、いろ街で遊んだ仲間が瘡（かさ）を移され、医者に見て貰ったことなど、本寺小路界限の様子なども興味深く伝えていきます。

### 3. 良寛さまを敬慕した町民たち

「瘡」と申しますと、良寛さまが分水町渡部の庄屋で造り酒屋を営んでいた阿部定珍に宛てた手紙に「此薬は三条より

近づきの医者に淋病の話をした処、使い者に持たせて寄こしたので、使ってみて下され度候」というのがあり、この手紙は、国指定の重要文化財となっています。当時、三条の医師で文人だったのは、佐藤元昌、山本宗純さんらが知られており、この辺りが良寛さまとご親交があったのではないのでしょうか。

良寛さまと親交のあった三条の人といえば、代官島の里正田沢家の出で、荻曾根の永安寺の大衆和尚に師事して出家された有願和尚がおられます。性来常人と異った方で、多くの人々は馬鹿坊主のように見ていたようですが、有願さんは詩文に長じ、書をよくし、画を玉元に学び一流の風格がおありでした。有願さんは頭のハゲた丸顔の大男だったので、やせて背の高い良寛さまと一緒にいる姿は滑稽だったと申します。良寛さまとの逸話が幾つか伝えられており、道端で行き倒れの乞食を弔い、その持ち物の碗の飯を良寛さまと分け合って食べた話や、寒中、ふんどし一つで池に入り、水面をにらんでいる姿を見た良寛さまが、その理由を尋ねられたところ、どうしてもだるまの目がうまく描けず、苦闘しているのだと聞き、良寛さまが有願さんに代って水中に入り、目をむいている様子を描かせたといった話。有願さんの没後も彼を慕って良寛さまが幾度か新発田の田面庵を訪れ、有願さんを偲ばれた詩や歌が幾つか残されています。

良寛さまがしばしば三条へお出になっ

た理由の一つに、裏館の宝塔院のご隠居、隆全和尚を訪ねられたことが挙げられています。隆全和尚は五合庵のある国上山の山腹にある国上寺で修行された方で、良寛さまとは同年齢であったとのこととされています。お二人は共に畏敬の友で、良寛さまには宝塔院は修行の場であったようです。現に三条信用金庫さんには宝塔院の寺号が書き込まれた「禅定窟」の掌号が大切に保存されていることはご案内の通りであります。隆全和尚に宛てた手紙が現存しており、中でも三条地震の折の見舞状がよく知られております。牧ヶ花の解良家には隆全和尚が集められた『良寛法師歌集』があり、画家で勤皇家の村山半牧が編集した『良寛歌集』は、刊行された良寛さまの歌集では最初のものでとされています。

文化九年（1812）、今から184年前に江戸で出版された橘崑崙の『北越奇談』は、鈴木牧之の『北越雪譜』と共に越後の二大奇書として知られていますが、著者の崑崙は北越三条の人と称し、五合庵の良寛さまについて書いておられます。崑崙は江戸の大学者亀田鵬斎とも交友が深く、鵬斎はまた良寛との交友によって大いに影響を受け、「鵬斎は越後帰りで字がくねり」とも言われています。良寛さまと鵬斎が競って書いたとされる三条八幡宮の仮名書きの大職の逸話をはじめ、「この浴衣洗っておくれ禪も」という四ノ町今町屋のお婆さんに宛てた置手紙の話、「し」の字を大書して貰った二ノ町成田

屋伝吉、神明宮前の団子茶屋利左衛門の老婆、栗林の弥之助茶屋、大島の桃畑で捕らえられた話などなど、良寛さまと三条にかかわるエピソードが数多く伝えられています。

また、村上藩三条陣屋の役人三宅相馬、柳川の名主で文化人として名高かった井上桐麻呂ら、良寛さまを敬慕し、親交を頂いた人々が三条にいたことを良寛さまの遺墨からも知ることができます。

良寛さまが修行された岡山県玉島の円通寺の良寛碑に次いで大きな詩碑とされる三条八幡宮に建立されている「十字街頭食を乞い了りて……言々」の乞食詩碑は大正十三年に建てられたものですが、この石碑は二代目のもので、初代のいしぶみは、良寛さまの没後四年、良寛さまを敬慕して止まらなかった三条の町民たちが、文政の三条地震に引き続いて見舞われた天保の飢餓の最中、良寛さまの詩碑では最古のいしぶみを、良寛さまゆかりの境内に建立したものであります。残念なことに文久年間の大火で焼損したのですが、この碑片は市立図書館に大切に保存されています。

#### 4. 結 び

先日、NHK総合放送の朝の人気テレビ・ドラマ『ひまわり』を見ていましたら、悔いのない人生を求めて、働き甲斐のある仕事を探しているドラマのヒロインが、職安のロビーで知り合った能力開

発センターを営む女性オーナーに面談、詐偽まがいの事業内容に不審を抱き、説明を聞くシーンがありました。女性オーナーの曰く、「いまの世の中で高い収入を得るためには、人の不満や不安につけ込んで、インチキだろうがなんだろうがやらなければならない。どんなに偉そうなことを言っても、所詮、お金を得る以外に、なんのために働くというのだ。仕事なんて、みんな人をだますことじゃないの」

こんな視点で私たちをとりまくコマーシャルやチラシをはじめ、もろもろの情報を問い直してみると、その多くは庶民の不満や不安を煽り、その発信者が高収入を得ている場合が少なくないように思います。このところ、国民の関心事である防衛問題・食料・エネルギー・環境・健康問題などにも、その関連を見ることができるのではないのでしょうか。

良寛さまの生涯を拝見すると、師を求めて法を聞いたり、座禅したりしているうちに、理屈は分かってもよし、分からなくてもよし、理屈のはずれた世界のあることが、だんだん理解されるように思えるのであります。どんなに立派な教義や道理でものを見たり行動しては、不自然であることが分かってくるように思うのです。自分の信条や尺度を持てば、それだけ狭く限られた生活者になる命運に気付くのではないのでしょうか。

一般に良寛さまは、名主の跡継ぎもできないほど役立たずの人だったと見られ

ています。一カ寺の住職になって、人々を教化伝導しようと、積極的に取り組むこともしませんでした。しかし、厳しい修行を通して、不自由な托鉢生活を生涯貫かれたことは、並大抵のことではなかったと考えられるのであります。

「八幡の森の木下に子どもらと遊ぶ夕日の暮れ間惜しかな」  
と、三条八幡宮境内で詠まれたとされる歌にもあるように、子どもたちと無邪気に遊ばれたという良寛さま。いかにも無欲に飄然とその日その日を送られた托鉢僧が、終生求め続けて止まらなかった「人間の本来の生き方」人間が人間らしくまともに生きる仏法の教えを实践された良寛さまを、三条の先人達は敬慕して止まらなかったように思うのでありま

す。  
古来、名僧とされる人たちは数多くあります。そんな中で、いかなる価値体系の基準で測っても測り切れない、理屈を越えた人間的な不思議な魅力、身なりはみすぼらしくとも言うに言われぬ気品が漂っている良寛さま、如何に捉えようとしても捉えきれない飄々とした良寛さまは、生涯托鉢と座禅を通して「人間の本来の生き方」を实践された希代の名僧だったのではないのでしょうか。こんな良寛さまを三条の先人たちは温く迎え、こんな人たちの住む三条の街を良寛さまはお好きだったのではないのでしょうか。

皆様の貴重なお時間を賜りましたご芳情を、心からお礼申し上げます。有難うございました。

### 雷さまの話し



#### 1. 雷さま発生の第一歩

夏の空にポツカリと浮かぶ白い雲、これが雷さま発生の第一歩。天気の良い日、日射しの強い日、地面に近い空気が熱せられて上昇する場合にできるのが積雲である。

上昇気流がさらに発達し積雲が重なり合って丸い頭が幾つもそびえ立つのが雄大積雲（入道雲）、こうなると真っ黒な雷雲（積乱雲）になるのはもう時間の問題といえる。

強い上昇気流によって雲の中に電気がプラスとマイナスに分離され、それが放電するのが雷光で、雲と地面との間で放電すれば落雷となる。

地表近くで上昇気流があり、上空には逆に冷たい空気が流れ込み気層の重なり方が不安定になるとさらに雷は発生しやすくなる。日本海から冷たい空気が流れやすい群馬、栃木方面の山沿いが雷の「名所」で夏では1/3の日数に雷が起きている。（気象庁の資料より）

## 2. 前日から注意しよう

「カミナリ三日坊主」とよく言われ、高層大気の不安定状態（これで雷が発生する）は三日ぐらい続くことが多い。前日、雷が鳴ったら、当日も一応注意した方がよい。

## 3. 昼食後、必ず空を見よう

不連続線でも通らない限り、午前中の雷はまずないといって良い。晴れた蒸し暑い日だったら午後必ず空を見上げよう。入道雲の広がった雷雲がきっと見えるはず、特殊な形をしているので百科事典などで覚えておくと便利。この雲の動く方向を注意するといいい。

## 4. 山での注意

雷鳴のあるとき、稜線から下がるか、窪地や洞くつの中で雷雲の通り過ぎるのを待つことが望ましい。よく雲の状態を注意しておくこと。夏に天気が良いければ、山岳地帯では必ず積雲が発達する。普通は午前10時ごろから積雲が浮かび始める

が、早朝から積雲が沸き立つようだと雷雨になることが多い。

積雲の底が低いときも、下層の空気の湿度が高く積乱雲が発達しやすいので要注意。雲底の高さは背景の山と比較して見当をつけることができる。1,500mぐらいの山の稜線が雲の下に見えれば、まず安心。1,000m程度の稜線に雲底がかかるようだと危ないと思った方がよい。

## 5. 避難のタイミング

遠くで鳴り出した雷は、光ってから音が聞こえるまでの時間が問題である。昼間だと初めは光りは見えない。この時点では、まず大丈夫である。光ってから10秒以内で音がするようだったら、要注意である。3秒ならもう頭の上だ。

ラジオの雑音も雷雲発生を目安となる。「ジャー」という雑音が1秒近く繰り返して聞こえるようだと、数10km以内に雷が起きていると考えられる。

(次回へつづく)

## 例会案内

---

三条RC 5月29日例会 クラブ・フォーラム

6月5日例会 卓話 渋谷正一会員

---

三条南RC 5月27日例会 卓話 武藤昭三会員

6月3日例会 創立記念例会

---

三条北RC 5月28日例会 卓話 柄沢憲司会員

6月4日例会 クラブアッセンブリー

---